

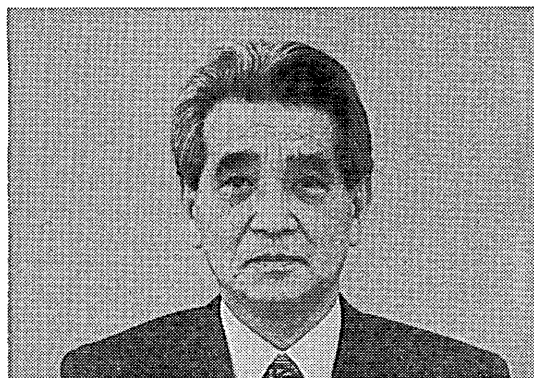
目 次

福生市公民館20周年に寄せて	福生市教育委員会教育長	来住野 和 也	2
公民館開館20周年を祝して	福生市公民館運営審議会委員長	川 辺 進	3
第1章 開館からの10年とその後の公民館			5
第2章 公民館事業のあゆみ<昭和62(1987)年～平成8(1996)年>			
1 保育室と公民館			17
2 子どもと公民館			48
3 青年と公民館			60
4 女性と公民館			70
5 障害者と公民館			87
6 成人と公民館			101
7 高齢者と公民館			151
8 公民館のつどい			175
9 公民館の援助事業			188
10 公民館ふっさ			191
第3章 公民館運営審議会のあゆみ<昭和62(1987)年～平成8(1996)年>			203
第4章 サークル活動のあゆみ<昭和62(1987)年～平成8(1996)年>			
1 公民館本館利用者連絡会のあゆみ			267
2 公民館利用団体			278
第5章 そして未来へ～生涯学習時代の公民館～			
1 座談会 ―公民館の20年とこれからの思う―			283
2 これからの公民館			301
巻末資料			305
公民館運営審議会諮問、答中等／公民館本館利用者連絡会要望書			
福生市社会教育施設使用料検討準備会報告書／基準、要領			
公民館予算の推移／利用者の推移			
編集後記			

福生市公民館20周年に寄せて

ソフトの時代に輝く公民館を

福生市教育委員会
教育長
来住野 和 也



公民館は、教育、学術、文化に関する各種事業を通じて生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与する機関であります。市民の皆様に改めてご確認いただきたいのは、「学ぼうとする市民の方々から自らの課題と目的に基づいて創造する機関」こそが、公民館の根本的な意義である点です。

公民館は従来から、このことを基本精神として運営されてきました。今後とも、是非、市民の方々が自ら文化を創造する公民館として御活用いただきたいと考えております。

市民の方々による文化創造といっても、文化や情報をいかに発信・受信するかということにつきると思います。また、いかに蓄積・接続・加工するかということでもあります。コンピュータの革命の速さは「秒進分歩」とさえ言われておりますが、公民館機能の刷新もハード・ソフトの両面にわたって遅れをとることは許されません。今後とも施設・設備・機能の刷新につきまして、研究し精進していく決意であります。

また、私たちは「ソフトの時代」「ソフトが問われる社会」に存在しております。

ハードもちろん大切ですが、何のためにあるのか存在を問い直すことや、何を有するのか中身を吟味することが重要となります。いくら立派な公民館でも、建物それ自体だけではなんの意味ももちません。中身が注目されるのであります。

私たちにも公民館自体として蓄積している情報があります。また、発信している情報があります。そうした情報が市民の皆様のご要望にかなう良質なものとなりますよう、今後ともさらに研磨してまいりたいと存じます。

これまで同様の、また、一層の御愛顧をお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

公民館開館20周年を祝して

福生市公民館運営審議会

委員長

川 辺 進



公民館開設20周年を、心より祝福いたします。

この20年を省りみる時、仮にはじめの10年を、開館に向けての先輩方の情熱と、その後の学習事業への取り組みと参加、学習への積み上げの時期と捉えると、後半の10年は先輩方の学習成果を更に発展充実させて来た時期と考えることが出来るでしょう。

公民館主催事業終了後の自主グループによる学習の継続、親と幼児が共に学び成長することを目的とした保育事業、特にこの事業に関する保育室担当者の努力は、特筆すべきものがあります。

文化的活動から大きく市民を巻き込んだ第九コンサート、コーラスファンタジー「虹の村」の上演、寿市民ひろばを盛り上げて来た高齢者の輪、女性フォーラムを主体とした女性の学び等々、市民の学習は公民館を中心にして、大きく地域に根付きはじめました。

公民館運営審議会も、市民の学びと共にいろいろな活動を行なってきました。特に公民館利用者と公民館職員との懸け橋として、各委員の自覚的活動が充実してまいりました。

平成6年には、館長の諮問により「生涯学習における公民館の役割について」答申を提出、更に平成8年「これからの公民館事業の編成について」を答申いたしました。

現在、公民館を取りまく諸状況は、厳しいものがあります。

公民館が、市民の学習拠点として、風雪にめげず更に充実、発展することを期待いたしております。

